

## 二 「係り結び」を知ろう！

※ 五つの助詞「ぞ・なむ・や・か・こそ」を使うと、その上の語句を「強調」「したり、その文を」疑問・反語「したり」できます。この五つの助詞を使った文は、終わり方をいつもと変えなければいけません。これが「係り結び」です。

### I 「ぞ」がついている語句は「強調」(強く言うこと)されます。

普通の言い方 風の音におどろかれぬ。

扇は空く上がりけり。

←「風の音」を強調したい

←「空く」を強調したい

係り結び 風の音に**ぞ**おどろかれぬ**る**。

扇は空く**ぞ**上がりける**る**。

### II 「なむ」がついている語句は「強調」されます。

普通の言い方 さぬきのみやつこと言ひけり。

←「さぬきのみやつこと」を強調したい

係り結び さぬきのみやつこと**なむ**言ひける**る**。

### III 「や」がついている文は「疑問・反語」の意味になります。

※ 「反語」とは…文を、あえて疑問文のような形にして、文全体を強調する。

普通の言い方 花なき里に住みならへり。

←疑問の文にしたい

係り結び 花なき里に住み**や**ならへ**る**。(花が咲かない里に住み慣れているのか。)

### IV 「か」がついている文は「疑問・反語」の意味になります。

普通の言い方 いづれ歌をよまざりけり。

←反語の文にしたい

係り結び いづれ**か**歌をよまざりける**る**。

(だれが歌をよまないであろうか。いや、皆よむ。)

### V 「こそ」がついている語句は「強調」されます。ただし、「ぞ・なむ」とは終わり方が違います。

普通の言い方 尊くおはしけり。

←「尊く」を強調したい

係り結び 尊く**こそ**おはしけれ**る**。

↑終わり方がI・IIと違うことに注目

☆ 教材文にある「係り結び」に~~~~線をつけ、その意味に気を付けながら音読しましょう。

1年生 P140 } 141 いろは歌 P147 } P154 竹取物語

2年生 P132 } P138 枕草子 P132 } P138 平家物語 P142 } P143 徒然草

3年生 P134 } P135 古今和歌集仮名序 P139 } P144 万葉・古今・新古今 P146 } P151 おくのほそ道